

令和2年度 学校評価書

学校教育目標		豊かな心と確かな学力を身につけ、たくましく生きる歴木中生徒の育成			重点目標	自ら考え、読み書き表現する生徒の育成 ～共に拓こう、大いなる可能性～ 目指す生徒像（思いやりの心を持ち支え合う生徒・目標を持って学習する生徒・心と身体を鍛える生徒）			
評価計画					自己評価		学校関係者評価		改善計画
重点目標	重点目標	目標達成のための方策（取組指標）	成果指標	評価	結果（成果○と課題△）	評価	コメント	次年度における改善策（案）	
	思いやりの心を持ち、支え合う生徒の育成	開発的生徒指導の視点に立って、生徒の良さを認める鍛ほめメソッドの推進を図る(3.5)	<生徒アンケート>「先生は良い所や頑張りを褒めてくれる」80%以上→91%	4	○ 9割以上の生徒がよさや頑張りを認めてもらっていると感じている。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 褒めてあげることが大切と認識するシンプルな目標を立て重点化されたことはとても評価できると思う。	・ 生徒のよさや頑張りを褒める、鍛養メソッドをさらに職員で共通実践し、95%以上の生徒が達成感を感じ取ることができると目指す。	
		道徳の時間の充実 重点項目：思いやり、感謝 B-(6)(3.6)	<生徒アンケート>「困っている人を見かけたら声をかけ助けようとする」80%以上→90%	4	○ 「思いやり」を重点目標として取り組み、9割以上の生徒が意識化することができている。	A	・ 思いやりの心の育成はとても大切だと思う。	・ 「思いやり」から「切磋琢磨」へと行動が高まるように重点的に教育活動全般に意識した実践を展開していく。	
		人や地域との繋がりを培うESD、SDG S（体験学習）を推進する(2.8)	<生徒アンケート>「『体験活動』での人や地域との繋がりは大切だと思う」80%以上→92%	4	○ コロナ禍で、訪問体験は中止となったが、1年生が福祉施設とモニターを通じてアート交換を実施するなど9割以上の生徒が地域との繋がりが大切だと感じている。	A	・ 福祉体験活動により、繋がりが思いやりの大切さを実感するようになってきているように思う。	・ コロナ禍の状況を見極めながら、各種体験活動をモニター化するなど工夫して人や地域との繋がりを推進していく。	
		「切磋琢磨」の精神を全校集会をはじめ教育活動の中で意識させる(3.5)	<生徒アンケート>「切磋琢磨しながら共に伸びようと努力している」80%以上→91%	4	○ 学校の評価は適切である。	A	・ 切磋琢磨の精神を大切と感じている。	・ GIGAスクールの円滑な推進をしていく。	
自ら考え、目標を持って学習する生徒の育成	志をもって自立して学ぶ姿勢を教育活動全体で推進する(3.6)	<生徒アンケート>「将来の夢や目標を持っている」80%以上→75%	3	△ 学活や総合の時間でのキャリア教育をより充実させていく。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 将来の夢や目標をもつ生徒80%以上は、是非達成してほしい。	・ 将来の夢や目標を持って努力する生徒を増やしていくために、小中一貫してキャリアパスポートを有効活用したキャリア教育を推進していく。		
	読み書き表現する活動を取り入れたわかる授業の推進(2.9)	<生徒アンケート>「授業が終わった時にできた(わかった)とよく思う」80%以上→82%	4	○ 読み書き表現する活動を意識した授業の取組が少しずつ浸透しつつある。	A	・ 根拠をもって書いたり発表したりする力は、小中連携において9年間を見通した指導が必要だと思う。授業改善においても同じだと思う。	・ 新学習指導要領への完全実施となり、豊かな見方・考え方を身に付けた生徒を育成するために、具体的方策を決めて共通実践していく。		
	自らの考えに根拠をもたせる活動を取り入れた授業の推進(3.1)	<生徒アンケート>自分の考えに理由をもち書いたり発表したりしている70%以上→64%	3	△ 自分の考えに理由を持たせる手法や時間が不足している。	A	・ どんぐりノート（自学ノート）の活用を6年生でも始まった。円滑な小中の接続ができればと思う。	・ 家庭学習の更なる充実を図るために、どんぐりノートの有効活用のための手立てを工夫して取り組んでいく。		
	どんぐりノートの活用による家庭学習の充実(3.0)	<生徒アンケート>「どんぐりノートを毎日しっかり取り組んでいる」80%以上→90%	4	○ どんぐりノートのよい例を積極的に公開して、やる気を持たせて9割以上の生徒が毎日しっかりと取り組んでいる。	A	・ 図書館利用や読書活動をもっと推進していただきたい。			
進んで心と身体を鍛える生徒の育成	三原則（礼を正し、場を清め、時を守る）の教室掲示による徹底(3.4)	<生徒アンケート>三原則を積極的に実践している生徒80%以上→90%	4	○ 生活三原則は、生徒にかなり浸透しており安定した生活と、心身の鍛練に役立っている。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 早寝・早起き・朝ごはんの取組はとてもよい取組だと思う。	・ 生活三原則を実際の生活に具体化して指導を深めていき、学校の活性化に寄与するように推進する。		
	早寝・早起き・朝ごはんの推進(3.3)	<朝寝・早起き・朝ごはんアンケート>「朝ごはんは毎日食べる」と答える生徒の割合80%以上→90%	4	○ レシピコンクールが定着しており、食育に対する意識も年々向上してきている。	A	・ レシピコンクールにおける食育への意識向上は、健やかな体を育成するために重要で充実している。	・ 基本的な生活習慣がいかにか大切かを再度理解させ、食育教育を推進する。		
	「体育会」を重点行事とし、リーダーを中心に主体的・意欲的に取り組ませる(3.3)	<レク大会生徒アンケート>意欲的にレク大会に参加できた生徒80%以上→89%	4	○ 体育会はできなかったが、レクリエーション大会に意欲的に取り組む姿が見られた。	A	・ 生徒が落ち着いていることは、地域の中で見ていてもとても感じる。それが、小学生の生活態度にもよい影響を与えていると思う。	・ 昨年度コロナ禍で実施できなかった体育会と合唱発表会を重点行事と位置づけ、切磋琢磨しながら達成感を味わわせる取組を目指す。		
	体力向上プランに基づく体育の授業における補強運動の年間を通じた継続実施(3.3)	<生徒アンケート>積極的に運動に取り組んでいる生徒80%以上→80%	4	○ 週3時間の体育の時間では、持久力や筋力、柔軟性を高める補強運動を取り入れている。	A	・ コロナが収束し、体育会等の行事ができるようになることを願う。	・ 自己の健康や体力に感心を持ち、自分なりの目標を設定して粘り強く、体育の時間で努力させる。		
いじめ防止	いじめ防止と早期発見・早期対応	いじめ「ゼロ」に向けた生徒会活動（挨拶運動やメルシーアーチ等）の推進	<学校生活アンケート>友達との関係の指数向上1.0以上→1.19	4	○ 入学後1年生によく見られる友人関係の課題も早期解決し、仲よく活動している場面が見られ人間関係は良好である。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ アンケートにおける気になる生徒への個別対応を行い、今後も早期発見早期対応をお願いしたい。	・ 友達との関係指数向上を目指し、人間関係をつくる力の育成のための体験的取組やクリエイションを取り入れる。	
	日常の様相観察と、チェックシート、アンケート等の活用	毎月のいじめアンケートの確実な実施と早期対応→実施できた	4	○ 毎学期の学校生活と毎月のいじめアンケートを確実に実施し、教育相談を実施している。	A	・ 先生達の地道で粘り強い努力が認められます。今後も小さな事でも見逃さず、目配りをお願いしたい。	・ コロナ禍における学校生活や家庭生活が人間関係の低下に影響を及ぼしていることが考えられ、ICTの有効活用を図る。		
	支持的風土に満ちた学級・学年づくりの推進「みんなががってみんないい」	<学校生活アンケート>「クラスの中に気持ちよく分かってくれる人がいる」3.0以上→3.3	4	○ 学級経営を基盤とした学校運営が実践できている。思いやりのある行動が随所に見られる。	A	・ 支持的風土に満ちた学級学年づくりを引き続きお願いする。	・ 学級経営において、「絆と居場所づくり」を重点目標として具体的方策や統一する事を明確にする。		
不登校対策	不登校予防と早期対応・継続指導	毎学期の学校生活アンケートによる教育相談の実施	定期・随時の教育相談の実施→実施できた	4	○ 昨年に比べて不登校数は半減している。落ち着いた学校生活や、気になる生徒へのアプローチが効果を発揮していると思われる。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 不登校の対応として、SCや関係機関との連携及び小学校から中学校への円滑な接続を慎重に行っていただきたい。	・ 昨年度より不登校は減ったものの、登校意欲指数が1.0を下回っていることが課題である。行きたい学校であるために、今何を取り組むべきかをしっかりと分析して、共通実践していくことが求められる。	
	関係機関やSC・SSWとの連携と組織的対応の実施	組織的対応により不登校傾向生徒に改善が見られる→3名に改善が見られた	4	○ 不登校の生徒との関係性が切れないように粘り強く家庭訪問や電話連絡を継続している。	A	・ 不登校の生徒の対応は、粘り強く継続して頑張っている。	・ 関係機関との連携と卒業後の進路指導が、よい方向へと導く大きな手立てとなっている。実態に合わせて今後も粘り強く取り組んでいくことが大切である。		
	福岡アクション3（早期対応）、マンツーマン対応（継続指導）の確実な実施	<学校生活アンケート>登校意欲指数1.0以上→0.93	3	△ 登校意欲指数が低いのが気になる。絆と居場所づくりの取組の充実を図る必要がある。	A	・ 登校意欲が高くなるように生徒が行きたいと思うような学校づくりを目指していただきたい。			
働き方改革推進	職員の意識向上と超過勤務時間の縮減	計画的な部活動休養日と活動時間の短縮	週休日1日と平日1日の部活動休止 活動時間平日2時間、週休日3時間程度	3	△ 職員の意識はかなり高まってきているが、部活動により温度差がまだ見受けられる。特に大会前が過剰になっている傾向が見受けられる。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 部活動の意義は大変大きいものがあるが、生徒の体力面や精神面も大事にしながら、目的意識をもって計画的に無理のないように取り組んでもらいたい。	・ 部活動ガイドラインを学校化していくことが必要と考える。できることから少しずつガイドラインに沿った活動になるように努力していく。	
	職員の超過勤務の縮減	超過勤務時間が月平均80時間を越えない	4	○ 計画性をもって勤務遂行し、超過勤務が80時間を越える職員はほとんどいない。	A	・ 先方も多忙であると思いついで、ゆとりをもって子どもたちと接していただければと思う。	・ 職員は、業務に対して早めによりかかり、計画性をもって取り組むようになっているので、さらに推進していく。		
	学校閉庁日の完全実施	8月、12月の学校閉庁日の確実な実施	4	○ 学校閉庁日は定着している。	A				

◇ 評価について
 ・【自己評価】 4：目標達成（90%以上） 3：ほぼ達成（70%～90%） 2：もう少し（60%～70%） 1：できていない（60%未満）
 ・【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである

学校教育目標		豊かな心と確かな学力を身につけ、たくましく生きる歴木中生徒の育成		重点目標	自ら考え、読み書き表現する生徒の育成 ～共に拓こう、大いなる可能性～ 目指す生徒像 (思いやりの心を持ち支え合う生徒・目標を持って学習する生徒・心と身体を鍛える生徒)				
評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画	
重点目標	目標達成のための方策 (取組指標)	成果指標	評価	結果 (成果○と課題△)	評価	コメント	次年度における改善策 (案)		
重点目標 に 関 する 評 価	思いやりの心を持ち、 支え合う生徒の育成	開発的生徒指導の視点に立って、生徒の良さを認める鍛ほめメソッドの推進を図る(3.5)	<生徒アンケート> 「先生は良い所や頑張りを褒めてくれる」80%以上	4	○ 生徒の良さを認め、励ましてやる気を持たせることができている。				
		道徳の時間の充実 重点項目：思いやり、感謝 B-(6)(3.6)	<生徒アンケート> 「困っている人を見かけたら声をかけ助けようとする」80%以上	4	○ 「思いやり」を重点目標として全校集会での話しや掲示物等でアピールしている。				
		人や地域との繋がりを培うESD、SDGS (体験学習) を推進する(2.8)	<生徒アンケート> 「体験活動」の人や地域との繋がりは大切だと思う80%以上	4	○ コロナ禍で、施設訪問や職場体験は中止となったが、1年生が福祉施設とモニターを通じてアート交換を実施できた。				
		「切磋琢磨」の精神を全校集会をはじめ教育活動の中で意識させる(3.5)	<生徒アンケート> 「助け合い競い合いながら共に伸びようと努力している」80%以上	4	○ 助け合う姿が増えつつある。				
	自ら考え、目標を持って学習する生徒の育成	志をもって自立して学ぶ姿勢を教育活動全体で推進する(3.6)	<生徒アンケート> 「将来の夢や目標を持っている」80%以上	3	△ コロナの影響で、体験活動や講演会が中止となり、将来の見通しに対する指導が十分とはいえない面がある。				
		読み書き表現する活動を取り入れたわかる授業の推進(2.9)	<生徒アンケート> 「授業が終わった時にできた(わかった)とよく思う」80%以上	3	○ 読み書き表現する活動を意識した授業の取組が少しずつ浸透しつつある。				
		自らの考えに根拠をもたせる活動を取り入れた授業の推進(3.1)	<生徒アンケート> 自分の考えを理由をつけて書いたり発表したりしている70%以上	3	○ どんぐりノートの良い例を積極的に公開してやる気を持たせて毎日取り組ませている。				
		どんぐりノートの活用による家庭学習の充実(3.0)	<生徒アンケート> 「ノートを毎日取り組んでいる」80%以上	4					
	進んで心と身体を鍛える生徒の育成	三原則(礼を正し、場を清め、時を守る)の教室掲示による徹底(3.4)	<生徒アンケート> 三原則を積極的に実践している生徒80%以上	4	○ 生活三原則は、生徒にかなり浸透しており安定した生活と、心身の鍛錬に役立っている。				
		早寝・早起き・朝ごはんの推進(3.3)	<早寝・早起き・朝ごはんアンケート> 「朝ごはんは毎日食べる」と答える生徒の割合80%以上	4	○ レジビコンクールが恒例化しており、食育に対する意識も年々向上してきている。				
「体育会」を重点行事とし、リーダーを中心に主体的・意欲的に取り組ませる(3.3)		<レク大会生徒アンケート> 意欲的にレク大会に参加できた生徒80%以上	4	○ 体育会はできなかったが、レクリエーション大会に意欲的に取り組む姿が見られた。					
体力向上プランに基づく体育の授業における補強運動の年間を通した継続実施(3.3)		<生徒アンケート> 積極的に運動に取り組んでいる生徒80%以上	4	○ 週3時間の体育の時間では、持久力や筋力、柔軟性を高める補強運動を取り入れている。					
いじめ防止	いじめ防止と 早期発見・早期対応	いじめ「ゼロ」に向けた生徒会活動(挨拶運動やメルシーアーチ等)の推進	<学校生活アンケート> 友達との関係の指数向上1.0以上	4	○ 1件の訴えがあったが、早期対応により早期解決した。				
		日常の様相観察と、チェックシート、アンケート等の活用	毎月のいじめアンケートの確実な実施と早期対応→実施できた	4	○ 毎学期の学校生活アンケートと毎月のいじめアンケートを確実に実施し、心配される生徒には教育相談を実施している。				
		支持的風土に満ちた学級・学年づくりの推進「みんなちがってみんないい」	<学校生活アンケート> 「クラスの中に気持ちを分かってくれる人がいる」3.0以上	4	○ 学級経営を基盤とした学校運営が実践できている。仲の良い、思いやりある光景が随所に見られる。				
不登校対策	不登校予防と 早期対応・継続指導	毎学期の学校生活アンケートによる教育相談の実施	定期・随時の教育相談の実施→実施できた	4	○ 昨年に比べて不登校数は半減している。落ち着いた学校生活や、気になる生徒へのアプローチが効果を発揮していると思われる。				
		関係機関やSC・SSWとの連携と組織的対応の実施	組織的対応により不登校傾向生徒に改善が見られる→9名の生徒に改善が見られた	4	○ 不登校の生徒との関係性が切れないように粘り強く家庭訪問や電話要薬を行い、状況に応じてSSWやSCから関係機関へとつなげることができている。				
		福岡アクション3(早期対応)、マンツーマン対応(継続指導)の確実な実施	<学校生活アンケート> 登校意欲指数1.0以上→1.0	4					
働き方改革推進	職員の意識向上と 超過勤務時間の削減	計画的な部活動休養日と活動時間の短縮	週休日1日と平日1日の部活動休止 活動時間平日2時間、週休日3時間程度	2	△ 職員の意識はかなり高まってきているが、部活動により温度差がまだ見受けられる。特に大会前が過剰になっている。				
		職員の超過勤務の削減	超過勤務時間が月平均80時間を越えない	4	○ 超過勤務が80時間を越える職員はほとんどいない。				
		学校閉庁日の完全実施	8月、12月の学校閉庁日の確実な実施	4	○ 学校閉庁日は定着している。				

◇ 評価について
 ・【自己評価】 4：目標達成(90%以上) 3：ほぼ達成(70%～90%) 2：もう少し(60%～70%) 1：できていない(60%未満)
 ・【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである

学校教育目標		豊かな心と確かな学力を身につけ、たくましく生きる歴木中生徒の育成		重点目標	自ら考え、読み書き表現する生徒の育成 ～共に拓こう、大いなる可能性～ 目指す生徒像 (思いやりの心を持ち支え合う生徒・目標を持って学習する生徒・心と身体を鍛える生徒)					
評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画		
重点目標 に 関 する 評 価	重点目標	目標達成のための方策 (取組指標)	成果指標	評価	結果 (成果○と課題△)	評価	コメント	次年度における改善策 (案)		
	思いやりの心を持ち、 支え合う生徒の育成	開発的生徒指導の視点に立って、生徒の良さを認める鍛ほめメソッドの推進を図る(3.5)	<生徒アンケート> 「先生は良い所や頑張りを褒めてくれる」80%以上→87.2%							
		道徳の時間の充実 重点項目：思いやり、感謝 B-(6)(3.5)	<生徒アンケート> 「困っている人を見かけたら声をかける」80%以上→83.1%							
		人や地域との繋がりを培うESD、SDGS (体験学習) を推進する(3.5)	<生徒アンケート> 「体験活動」の入り地域との繋がりは大切だと思う80%以上→95.4%							
自ら考え、目標を持って 学習する生徒の育成	「切磋琢磨」の精神を全校集会をはじめ教育活動の中で意識させる(3.6)	<生徒アンケート> 「助け合いながら共に伸びようと努力している」80%以上→88.7%								
	志をもって自立して学ぶ姿勢を教育活動全体で推進する(3.5)	<生徒アンケート> 「将来の夢や目標を持っている」80%以上→78.5%								
	読み書き表現する活動を取り入れたわかる授業の推進(3.3)	<生徒アンケート> 「授業が終わった時にできた(わかった)と思う」80%以上→73%								
進んで心と身体を鍛える 生徒の育成	自らの考えに根拠をもたせる活動を取り入れた授業の推進(3.3)	<生徒アンケート> 「自分の考えを理由をつけて書いたり発表したりしている」80%以上→55.4%								
	どんぐりノートの活用による家庭学習の充実(3.0)	<生徒アンケート> 「ノートを毎日取り組んでいる」80%以上→76.9%								
	三原則 (礼を正し、場を清め、時を守る)の教室掲示による徹底(3.6)	<生徒アンケート> 三原則を積極的に実践している生徒80%以上→87.7%								
いじめ防止	早寝・早起き・朝ごはんの推進(3.2)	<早寝・早起き・朝ごはんアンケート> 「朝ごはんは毎日食べる」と答える生徒の割合80%以上→87%								
	「体育会」を重点行事とし、リーダーを中心に主体的・意欲的に取り組ませる(3.8)	<体育会生徒アンケート> 意欲的に体育会に参加できた生徒80%以上→93.8%								
	体力向上プランに基づく体育の授業における補強運動の年間を通した継続実施(3.3)	<生徒アンケート> 積極的に運動に取り組んでいる生徒80%以上→80%								
不登校対策	いじめ「ゼロ」に向けた生徒会活動 (挨拶運動やメルシーアーチ等) の推進	<学校生活アンケート> 友達との関係の指数向上1.0以上→1.2								
	日常の様相観察と、チェックシート、アンケート等の活用	毎月のいじめアンケートの確実な実施と早期対応→実施できた								
	支持的風土に満ちた学級・学年づくりの推進「みんなちがってみんないい」	<学校生活アンケート> 「クラスの中に気持ちを分かってくれる人がいる」3.0以上→3.4								
働き方改革推進	毎学期の学校生活アンケートによる教育相談の実施	定期・随時の教育相談の実施→実施できた								
	関係機関やSC・SSWとの連携と組織的対応の実施	組織的対応により不登校傾向生徒に改善が見られる→9名の生徒に改善が見られた								
	福岡アクション3 (早期対応)、マンツーマン対応 (継続指導) の確実な実施	<学校生活アンケート> 登校意欲指数1.0以上→1.0								
働き方改革推進	計画的な部活動休養日と活動時間の短縮	週休日1日と平日1日の部活動休止 活動時間平日2時間、週休日3時間程度								
	職員の超過勤務の縮減	超過勤務時間が月平均80時間を越えない								
	学校閉庁日の完全実施	8月、12月の学校閉庁日の確実な実施								

◇ 評価について
 ・【自己評価】 4:目標達成(90%以上) 3:ほぼ達成(70%~90%) 2:もう少し(60%~70%) 1:できていない(60%未満)
 ・【学校関係者評価】 A:自己評価は適切である B:自己評価は上方修正すべきである C:自己評価は下方修正すべきである